

オコタンペ溪谷 遡行記録(F1～オコタンペ湖まで)

実施日 令和5(2023)年9月3日(日)

参加者 A藤(CL)、K林、T島、N沼、

略行程 8:20 展望所先のゲート発→8:50 オコタンペ橋→9:00 オコタンペ川入溪→10:00F1→10:30 オコタンペ橋下→10:50F2→12:20 ピナクルの滝→12:50 オコタンペ湖→藪突入・戻り→14:05 オコタンペ湖を去る→14:20 展望台駐車場(昼食)

装 備 ロープ3本(40m、30m、20m)、ハーケン、クイックドロ、捨て縄、通常の沢装備

反 省 リードの持つ装備は、チームで分担すべき。セカンド以降の者は、ロープ中間点の架け替えを体得しておくべき。

概 要

前日(9/2)の大星沢右股が前日までの降雨で中止となったが、A藤氏、前日(9/2)の現地調査では、降雨の影響は(初の現地にもかかわらず)無いとの判断で、決行となった。

オコタンペ川はオコタンペ湖を起点する川である。湖の表面水の多くが川に流れ込むためか、水は温かった。



湖を起点にする川であるが、かなり荒れている川であった。その一因は両側の絶壁からの落石・崩壊が考えられる。

る。

河川の石は、『温泉の華』状態の付着物や『苔』のため、すべりやすかった。

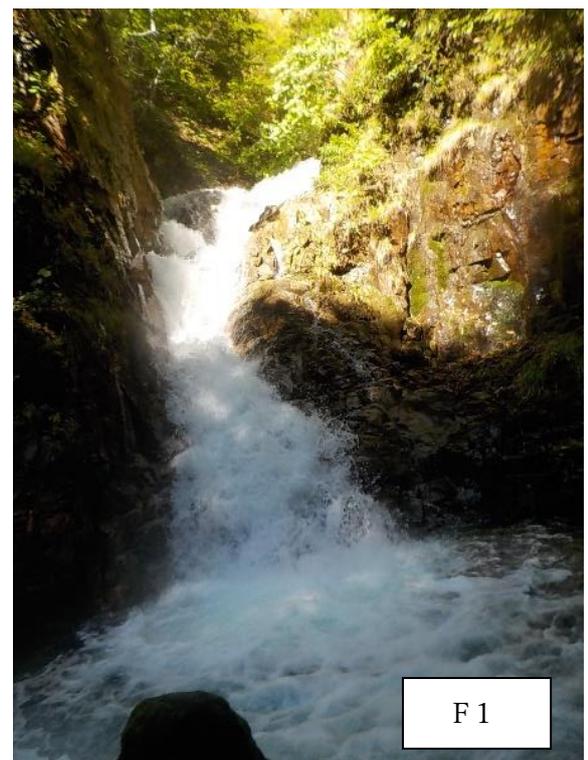
道道からの入り口のゲートが開いており、展望台P場で4人集合、1台の車でP場まで移動。そこから歩き。

入溪(左上図)場所は枝沢の排水管の中、暗中模索状態。目がなかなか慣れない。なぜか、ヘッドランプを持参していたが、装着しなかった。

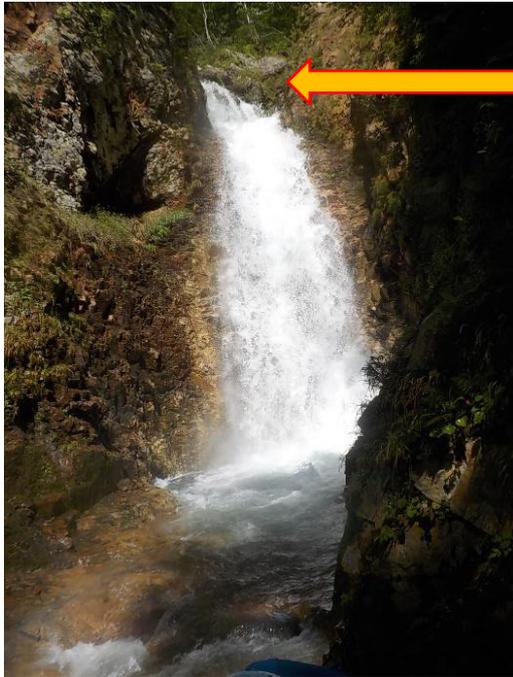
放置された車両が右岸にあった。冬タイヤを装備しており、もし転落したのなら、運転手の心情やいかに。

砂防ダム。基礎部が現河床から浮いている。設計ミスか?

滝の音が聞こえ、ゾクゾクしながら左に回るとF1だ。ドウドウと流れかなりな水量。ここは、基部を右に回り込み、滝の右側を登った。



橋の下で一休み。



アッパレ 忍 抜けた

後続は、ロープをすべてつなぎ、芋ずる式に確保してもらい登った。

さて、F2を登ってしまった。もう戻れないぞ。

既存の情報ではF6まであるとの事だが、F2を超えてからは、数えるのを忘れ、右に左にルートを変え進む。

橋よりしばらく行くとF2だ。漠々と流れ、水しぶきがすごい。

トップA藤氏。完全装備で、滝の右側を果敢に攻める。途中残置ハーケンとカラビナがあり、安全確認の上、ロープの中間点とした。

出口が非常に悪い。左よりの水流部を水圧と格闘しつつ登る。日頃の指力鍛錬と根性が功をし、なんとか滝上に。



ピナクルの滝

横断箇所では水流に脚をすくわれそうになったり、浮石に乗りながらもなんとかクリヤー、へつりのできない釜では、足のつかない水の中を手の力で移動するが(泳ぎ)、たまに流されそうになる。



やり切ったぜ 後方は、オコタンペ湖の水面



オコタンペ湖の魚を試食中

ピナクルの滝を超え、オコタンペ湖の水面が見えたときは、感激の声 湖の小島まで泳いだり、湖水を試飲したり、カメと遊んだりしながら、帰路へ。

達者でなにより CL様お世話になりました。



離島の3人